

本当は怖い平井浜

日置 幸介

鹿島支所第三宇宙通信研究室勤務（1984-1990, 1992-1994）の期間で最も印象深い出来事は、1986年の夏に平井浜で死に損なったことです。当日は台風の影響で波が高く、細かで雑な波が多く押し寄せていました。しかも波が横に（岸と平行に）動いており、とても奇異に感じたことを覚えています。後で考えると、強い離岸流が発生していたのでしょうか。フィンが一ついたサーフボードを持って沖にでようと、腰の深さまで歩いていったあたりで、強烈な沖に向かう海水の流れに気がつきました。これは危ないなと思って方向転換、歩いて岸に向かったところ流れが強烈で歩くことも出来ません。パドリングして岸に向かっても流れに逆らうことは出来ず、あっという間に沖に流されました。かなりパニックになりましたが、離岸流というものは意外に細く、海岸に沿って移動すれば抜けられるという本で読んだ知識を思い出しました。そこで無理に岸に向かうのはあきらめて漁港の方に（南に）ゆっくり移動し、防波堤の

下のテトラポッドの近くまでたどり着きました。波が高いのでテトラポッドへの激突の危険はありましたが、離岸流からは脱出できたようです。テトラポッドに沿って砂浜にゆっくり向かいました。防波堤の上にいる地元のヤンキーの兄ちゃんが私に気づいてロープを持って助けに来てくれたのですが、無事自力で浜に戻ることができました。浜を出ると台風一過の青空で先ほどまでの出来事がうそのようでした。テトラポッドにぶつかってボードには小さな穴がいていました。第二宿舎に戻って「波どうだった？」と聞く妻に、ポーカージェスで「まあまあだった」と答えました。でもその夏を最後にサーフィンはやめてしまいました（結局直滑降以外の芸はマスターできなかった）。皆さんも平井浜の離岸流にはくれぐれもご注意下さい。ちなみに上級サーファーになると、離岸流を利用して楽に沖にでるといふ恐ろしい技を使うようです。

